

# 大竹市指定重要文化財

## 有形文化財

しょうみょうじ かんしょう

## 称名寺の喚鐘

所在地 大竹市玖波六丁目六番三十三号

指定年月日 平成三十年三月二十八日

喚鐘は、時を告げる梵鐘ぼんしょうよりも小型で、法会ほうえなどの行事を知らせるときに使われ、火の見やぐらで火災などを知らせる半鐘はんしょうもこの一種である。

称名寺の喚鐘は、現在、役目を終え本堂西側の廊下に吊るされている。この喚鐘に彫られた銘文には、天和元年（一六八一）に、一人の信心深い女性が生前に死後の極楽往生を願って、芸州く久（玖）波浦ば称名寺に寄進したこと、この時の住職が専誉上人せんよしょうにんであることが記されている。当時、近隣では廿日市の鑄物師いもじの山田氏が鐘の製作にあたっており、作者の銘はないが、鐘の作風、文様などから山田一族が関わった鐘であると考えられる。市内で確認されている梵鐘、喚鐘の中で最古のものであり、江戸時代前期の鑄造技術や意匠、庶民の生活を知るうえで貴重な史料である。